

政務活動報告書

令和6年10月1日

〔会派名：自由クラブ〕

代表者氏名	山下 登	記録者氏名	柏 元三
活動者氏名	山下 登、木平 秀喜、柏 元三		
活動日	令和6年7月17日（水）～18日（木）		
活動先	習志野市 三鷹市		
活動目的	子どもの居場所づくり「放課後子ども教室」の立ち上げから運営		

概要

習志野市放課後子ども教室

1、設立までの沿革

令和2年1校 令和3年2校 令和4年3校 令和5年4校
令和6年1校 (小学校全16校)

2、主な活動場所

小学校の空き教室、特別教室が多い、校庭、体育館
児童数が増加しており余裕教室の無い学校がある。

3、運営主体

全教室の運営は事業者（民間企業）に委託

4、予算

1教室平均1000万円以上
高すぎるとの批判があるが、市長の選挙公約があり、スムーズに実施

5、教育効果（適時アンケート調査実施）

- ① 友達が増えた ② 興味・関心のあるものが増えた
③ 家での会話が增进了

6、運営の重要事項

コーディネーターの役割が重要、学校（校長）の理解と協力は絶対条件



三鷹市放課後子ども教室

1、設立までの沿革

平成15年 モデル校3校

平成16年 モデル校5校に拡大（文科省の委託事業）

平成17年 全15校で実施 平成22年子ども政策部青少年課が所管

平成27年 学童保育所（放課後児童クラブ）との連携

令和3年から民間委託方式（地域運営、地域・事業者共同）を順次開始

8校（全15校中）が週5日＋長期休暇実施

2、主な活動場所

教室開放、校庭体育館

児童数が増加しており余裕教室の無い学校がある。

3、運営主体

基本は地域運営（委員会等） 将来不安がある

4、予算

15校の予算は190万円～1600万円

100万円台2校 200万円台4校 300万円台1校

400万円台1校 1000万円台7校

原則は国1／3、都1／3、市1／3であるが

東京都の補助金に上限有、350万円／1校

5、教育効果

コミュニティ・スクールの活動と連動しており効果は？

6、運営の重要事項

コーディネーターの役割が重要、学校（校長）の理解と協力は絶対条件

《総評》

- 1、 教育民生委員会で視察した、和光市、我孫子市と今回の習志野市、三鷹市に共通する点は。

①文科省が求める「子どもを核にした地域づくり」では無く、「子どもの居場所づくり」に特化していた。そもそも、放課後子ども教室は「小1の

壁」「教育指導要領の改訂」「教師の働き方改革」のためにできた制度であり、これ等と「地域づくり」と結び付けるのは難しい。

②放課後子ども教室の終了時間は17時となっている。何故17時なのか？18時まで出来ないのか？

子どもたちはそれぞれ独自で帰宅するのが原則になっているため、安全を考慮した帰宅時間なのか、あるいは放課後児童クラブとの兼ね合いか？文科省の予算の問題か？視察先4市は通学路の人通りが多く、誘拐などの事件性は考えにくく、帰宅時の子どもの安全性の問題は考慮せずとも良いと思えた。

③名張市の場合は、時間に関係なく通学路の人通りはまばらである。そのために「子どもの帰宅時の安全は最重要課題」である。

「通学路に監視カメラの設置」を提案する。

家庭の事情で、独自に帰宅せざるを得ない子どもの安全を担保しなければならない。

2、予算は習志野市、三鷹市共に、放課後子ども教室を週5日プラスα運営する1か所の運営費が1千万以上である。三鷹市は2～3百万円の所もあるが、千6百万の所もある。運営方法の違いを詳細に分析せずに、理由を軽々に判断できない。三鷹市の1校当たりの児童数は600人前後が多く、費用が高い一因と考えられる。

3、習志野市は営利企業に業務委託しており、地域づくりの意図は全く見られなかった。

市長の選挙公約だったためか、外部委託方式を採用し、助走無しでいきなり立ち上げ運用している。

三鷹市は地域の有志が委員会を作って立ち上げ、運営している。ちょうど名張市の放課後児童クラブの立ち上げ運営に酷似している。ただ、三鷹市はCS発祥地であり、放課後子ども教室の土壌が整っていた。既に活動していた「CSの子どもクラブ」から発展したのが多く見られる。

4、名張市について

名張市の放課後子ども教室は、子どもたちの居場所づくりとは遠く掛離れてい

る。「子どもを核にした地域づくり」にとらわれず、単純に「子どもの居場所づくり」に特化するなど、放課後子ども教室の原点に戻って、「真の在り方」を考え直す必要がある。CSが運用している放課後子ども教室は、すぐにでも「真の放課後子ども教室」に移行できるはず。

新規予算が発生するが、無駄遣いを無くせば金は産み出せる。